

たか、し



卒業・進級を迎えるにあたって

校長 本橋 忠旗

桜のつぼみも大きくなり、間もなく開花を迎えようとしています。令和7年度もいよいよ結びを迎え、それぞれの新しい出発の時を迎えます。

本日は修了式、明日は卒業式となります。それぞれの式では、年間、或いは小学校の全課程を修了したことを示す修了書・卒業証書を授与します。

さて、今年度の卒業生が入学した令和2年（2020）の春は、東京オリンピックの開会を目の前に新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい始め、世の中全体が不安に襲われたころでした。学校では臨時休業措置がとられ、いわゆる「3密」を避けながら、入学式は「青空入学式」となりました。

そのような状況にあった当時、偶然に目にしたあるニュース番組の内容が今でも記憶に残っています。それは元ラグビー日本代表ヘッドコーチ エディー・ジョーンズ氏へのインタビューでした。インタビュアーが「代表チームを率いた経験を振り返って日本人のよさはどこにあるのでしょうか？」と尋ねると、エディー氏は「従順なところですよ。」と答えました。「従順というのは、『言われるがまま』とか『主体性がない』という意味合いで捉えられることもあります…」と尋ねると、エディー氏は「日本人は、『自分たちが正しいと思ったことに従順』ですよ。」と答えました。他の番組では、「日本人の強みは、真面目で忍耐力があること。それは間違いなく世界一である。」とも評しています。さらに「成長」をキーワードに次のようなことも語っています。「自分（エディー氏）も生きていく中で100%頑張る気持ちになれない朝もある。でも、そういう日こそ自分を奮い立たせないといけない。波を小さくさせ、一貫性を保つことが人間の成長の差を分ける。」

世界のトップチームを作ってきた人の言葉から「日本のよさ」や「素直さ」「真面目さ」「粘り強さ」といった価値観、人の心の在り様について考えさせられたものでした。

本日、通知表をお渡しします。どうか1年間の学びを肯定的に価値付け、次のステップに向けて前向きな目標を立てる資料としてご覧ください。

今年度は、総合的な学習を中心に「社会参画」をキーワードに取り組んできました。令和8年度も「協働する子」を重点目標にしながら、よりよい学級、よりよい学校、よりよい社会の在り方を児童と一緒に考えていきたいと思っております。

多くの皆様のご理解とご協力によって、ここまで来ることができたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

<令和8年度の教育活動について>

年間の予定

- ・ 運動会は、10月24日（土）の開催とします。また、音楽会を11月20日（金）～21日（土）で開催します。
- ・ 高学年の宿泊学習は6年生が6月8日（月）～10日（水）長野県白樺湖周辺、5年生が7月1日（水）～7月3日（金）山梨県山中湖周辺の施設で行います。
- ・ 学校公開を1学期は、5月15日（金）・16日（土）、1月22日（金）・23日（土）の計4日行います。また、道徳授業地区公開講座を9月5日（土）に実施します。
- ・ 個人面談は、保護者の皆様との対話を重視する観点から、今年度同様、7月の夏季休業中と2学期末の2回設定します。通知表の所見は、面談をもって代えさせていただきます。
- ・ 学校行事を含め、保護者会や個人面談等で、概ね月1回程度、来校いただけるような機会をつくっておりますので、学校生活の様子を共有する機会としてください。
- ・ 4月より、放課後等居場所事業が始まりますので、ご利用ください。なお、利用に際しては、事前の登録が必要となります。

主な教育活動

- ・ 来年度も教育目標における重点を「協働する子」とし、多様な他者との協働的な学習や話し合い活動の充実を通じて、自他の考えを生かしながら、よりよい考えを見付け出そうとする態度を育てていきます。
- ・ 各教科の学習を通じて、情報活用能力（情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力）の育成を重視していきます。そこで、学習用タブレットの活用スキルや情報モラル、学習活動の活用に関わる指導の時間を新設し、その能力の向上に努めます。
- ・ 教科指導の充実を図るために、高学年における教科担任や低中学年における交換授業を実施し、指導の効率化や学年経営の充実を図ります。また、低中学年では、多様な他者と協働する機会の充実を目的に、学年内における交流の機会の工夫・充実を図ります。
- ・ 教員と児童相互が共通の目標をもって学校生活を送ることができるようにするために、定期的に学年会、学級会を実施し、児童の意見を反映させながら学年・学級経営を進めていきます。
- ・ いじめの未然防止を目的とした委員会活動等の充実を図り、児童のいじめに対する意識の向上を図ります。また、いじめに関する定期アンケートに「相談者の有無」を確認する設問を新設し、児童の孤立・孤独化を防ぐようにします。
- ・ 危機管理マニュアルにもとづいた校内・校外学習の計画を立て、児童の安全の確保を図ります。また、方面別下校訓練を行ったり、震災救援所訓練を担う地域防災組織との連携を図ったりすることで緊急時の安全の確保が円滑にできるようにします。